国　　語

1　国語科における授業改善等の成果と課題

学習指導要領では、国語科で育成を目指す資質・能力を「国語で的確に理解し、効果的に表現する資質・能力」と規定するとともに、これらを育成するためには、生徒が「言葉による見方・考え方」を働かせることが必要であるとしている。

国語で的確に理解し、効果的に表現する際には、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことの「思考力、判断力、表現力等」のみならず、言葉の特徴や使い方、情報の扱い方、我が国の言語文化に関する「知識及び技能」が必要になる。また、国語で理解したり表現したりする様々な場面の中で、生きて働く「知識及び技能」として身に付けるためには、思考・判断し表現することを通じて育成を図ることが求められるなど、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」は、相互に関連し合いながら育成される必要がある。

これらを実現するためには、教師が「子どもたちにどのような力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、ICT の新たな可能性を指導に生かすことで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図る、「指導と評価の一体化」が求められている。

北海道教育委員会では、各教科等教育課程研究協議会や北海道高等学校教育課程研究協議会、指導主事による学校訪問等を実施するとともに、各種研修会や、各管内における教科研修会等を通して､次のような国語科における教育課程実施上の成果と課題を把握した。

成　果	課　題
・生徒が主体的で対話的な学びに取り組めるよう心理的安全性の担保に配慮した授業づくりを進めている学校が増えている。	・育成を目指す資質・能力と設定した言語活動や課題との関連が薄くなっている場合がある。
・言葉による記録、要約、説明、論述、話合い等の言語活動を取り入れた授業改善が図られている。	・一単元一領域の意識は根付いてきているが、評価場面の精選に課題があり、指導の評価の一体化が不十分な場合がある。
・総合的な探究の時間や他教科と連携した、教科等横断的な学びを取り入れた授業改善に取り組む学校が増えている。	・一つの単元で取り扱う「知識及び技能」の指導事項が多く､「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」の関連が薄くなっている場合がある。
・生徒が自らの学びを調整し、粘り強く課題等に取り組むことができるよう、単元の目標や流れを明確にし、生徒が自らの学びを振り返る場面を設定した授業が増えている。	・生徒が自らの学びを振り返る場面や相互に評価し合う場面において、観点が明確になっておらず､学習の調整につながっていない場合がある。
・ICT を活用した情報収集や共有、グループワークを取り入れ､「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図ることを意識した授業づくりを進めている学校が増えている。	・「主体的に学習に取り組む態度」の評価が､「粘り強さ」や「学習の調整」の状況を捉えることなく、振り返りシートの記述量によって評価するなど､形式的なものとなっている場合がある。

このように、各学校では、学習指導要領の趣旨を踏まえ、単元を通して目指す資質・能力を明確にし､言語活動を通して資質･能力を育成する授業改善が図られている一方､「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」を相互に関連させながら、単元を通して資質・能力を育成するという視点に立った「指導と評価の一体化」の充実が引き続き求められている。

２　学習指導及び学習評価の改善・充実

学習評価は、「生徒にどういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにするためにも、学習評価の在り方は重要であり、教育課程や学習・指導方法の改善と一貫性のある取組を進めることが求められる。

例えば、「思考・判断・表現」の評価は、各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために、必要な「思考力、判断力、表現力等」を身に付けているか評価するものである。「思考・判断・表現」の評価をするために、教師は、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善をする中で、生徒が思考・判断・表現する場面を効果的に設定するなどした上で、指導・評価することが求められる。

また、思考・判断・表現の過程には、

・物事の中から問題を見いだし、その問題を定義し解決の方向性を決定し、解決方法を探して計画を立て、結果を予測しながら実行し、振り返って次の問題発見・解決につなげていく過程
・精査した情報を基に自分の考えを形成し表現したり、目的や状況等に応じて互いの考えを伝え合い、多様な考えを理解したり、集団としての考えを形成したりしていく過程
・思いや考えを基に構想し、意味や価値を創造していく過程

があり、各教科等の特質に応じて、「見方・考え方」を働かせ、探究的な学習活動の中で、具体的な学習内容、単元や題材の構成や学習の場面等に応じた授業改善の方法について研究を重ね、ふさわしい方法を選択しながら、工夫して実践できるようにすることが重要である。

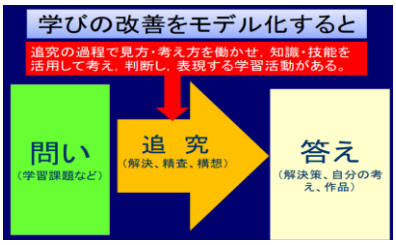


図　学習指導要領における思考力、判断力、表現力の評価について（平成 30 年７月９日教育課程部会 児童生徒の学習評価に関するワーキンググループ）

さらに、学習評価の現状における課題として、生徒の中には、「先生によって観点の重みが違い、どのように努力していいか分かりにくい」と感じている者もいる。生徒のこのような意見には適切な評価を求める切実な思いが込められている。一方、教師の中には「評価のための記録に労力を割かれて、指導に注力できない」という意見がある。評価材料を集めることのみを目的に毎時間振り返りを書かせるなど、評価のための指導に追われる、いわゆる「指導の評価化」の状況が生まれ、評価のために過度な労力を割かれ、結果として学習や指導の改善に十分に注力できていないと考えられる。

こうした状況を踏まえた上で、国語科における学習評価の工夫には次のようなことが考えられる。

(1) 評価の計画と記録に残す場面の精選

毎時間生徒全員について記録を取り、総括の資料とするために蓄積することは現実的ではない。生徒全員の学習状況について記録に残す場面を精選し、かつ適切に評価するための指導と評価の計画が一層重要になる。

例えば、「現代の国語」の「資料を用いて効果的に発表しよう」という単元において、グループ協議を踏まえて作成した発表台本は、その内容が評価規準を満たしているか確認する（指導に生かす評価）ための資料として扱い、発表を記録した動画は、評価規準

に照らして実現状況の高まりを評価する（記録に残す評価）ための資料として使用するなど、見取りの場面を精選することが考えられる。

(2) 評価規準の明確化と生徒への共有

評価規準や評価方法等の評価の方針について、必ずしも教師が生徒に伝えていない場合がある。どのような方針によって評価を行うのかを事前に示し、共有しておくことは、生徒に身に付けるべき資質･能力の具体的なイメージをもたせる観点から不可欠である。また、生徒に評価の結果をフィードバックする際にも、どのような方針によって評価したのかを改めて生徒に共有することも重要である。

例えば、「現代の国語」の「情報の妥当性や信頼性を吟味しながら複数の情報を組み合わせて意見文を書こう」という単元で、意見文を書くための構成メモを作成する際に、次のような評価規準に照らした実現状況について事前に生徒に示しておくことが考えられる。

【Ａ】十分に満足	【Ｂ】おおむね満足	【Ｃ】努力を要する
複数の適切な根拠を組み合わせて説得力を高めたり、説明の仕方の工夫において、的確な事例を複数挙げて伝えたいことをより明確にしたりしている。	自分の考えが的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方の工夫を構成メモに具体的に記述している。	根拠の示し方や説明の仕方についての工夫が具体的に表現できていない。

３　指導と評価の計画例

論理国語「情報を整理して、適切な論拠を基に自分の考えを述べる(Ａ 書くこと)」の計画例

(1) 単元の目標

ア　情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め使うことができる。　〔知識及び技能〕(2)イ

イ　多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にすることができる。　〔思考力、判断力、表現力等〕Ａ 書くこと(1)エ

ウ　言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。　〔学びに向かう力、人間性等〕

(2) 本単元における言語活動と教材

ア　言語活動　設定した題材について多様な資料を集め、調べたことを整理して、様々な観点から自分の意見や考えを論述する活動。
関連：〔思考力、判断力、表現力等〕Ａ 書くこと(1)エ

イ　教　　材　山田昌弘「家族化するペット」（『論理国語』大修館書店）、内閣府やマーケティング・リサーチ企業によるペットに関する世論調査等

(3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め使っている。（(2)イ）	「書くこと」において、多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にしている。（Ａ(1)エ）	意見文を書くことを通して、自らの主張を支えるために必要な情報を粘り強く収集･吟味し取捨選択する中で、自らの学習を調整しようとしている。

根拠の吟味：考えや言動の拠り所となる客観的な事実や情報の正誤などについて精査し判断すること。
論拠の吟味：主張がなぜ成り立つのかを説明するための理由付けの適否などについて検討し判断すること。
（「高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説　国語編」159 ページ）

(4) 単元の指導と評価の計画（７時間）

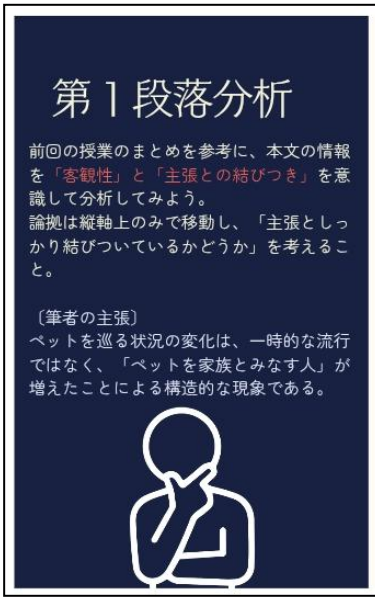
<table>
<tr><th>次</th><th>学びの過程</th><th>学習活動</th><th>指導上の留意点</th><th>評価規準・評価方法等</th></tr>
<tr><td rowspan="3">第１次（３単位時間）</td><td rowspan="3">習得</td><td>○単元の目標や学習の進め方を確認し、学習の見通しをもつ。

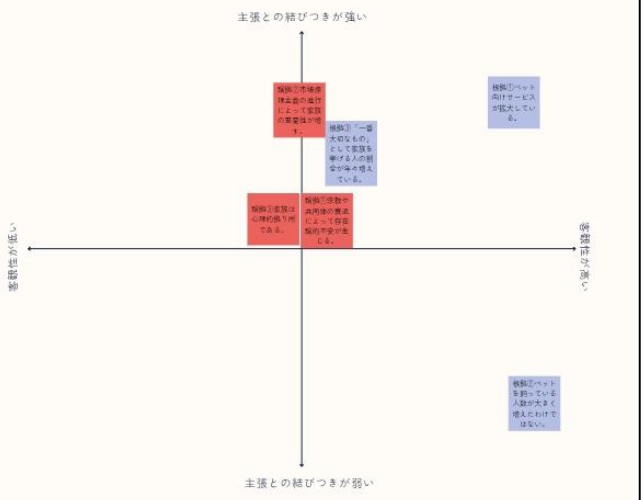
○情報の収集・整理の方法を理解する。
【水平思考クイズ】
・クイズの問題文を読み、疑問に思った点を出題者（教員）に質問する。
・出題者（教員）に「はい」、「いいえ」、「どちらでもない」で答えられる質問をし、得られた回答の情報を整理・分析し、解答の根拠となる情報を３つ選択する。
・分析した情報を基に、クイズの解答とその論拠を文章化する。</td><td>・本単元では、情報を整理して、適切な根拠や論拠を基に自分の考えを述べることを目標とし、根拠や論拠の吟味が重点となることを伝える。
・答えを当てる活動や、根拠や論拠を分類する活動に終始させず、情報をどのように収集・整理し、根拠として評価するかという思考過程そのものを意識させる。

【水平思考クイズによる情報収集に関する学びの留意点】
得た情報のうち何を根拠として答えを導き出したのか、について明確にすることを目標として取り組むよう声掛けをする。</td><td>【記録に残す評価】
観点：知識・技能
方法：「記述の分析」
ワークシート</td></tr>
<tr><td colspan="3">＜ワークシートの例（イメージ）＞
２　今日の目標
情報の収集・整理の方法を理解する。
↓そのために今日やることは……
【「水平思考クイズ」で「情報の収集・整理をして主張を組み立てる練習をしよう！】
①クイズの問題文を読み、疑問に思った点を先生に質問する。ただし、「はい」や「いいえ」で答えられるような聞き方をすること。
②みんなの質問と先生の答えを記録する。答えの記録は「はい」、「いいえ」、「どちらでもない」のいずれか。
③集めた情報を分析して、クイズの答えを導きだす。ただし、大事なのは「どうしてそう思ったか」を②の考えから説明すること。
３　やってみよう！①
テレビ、雑誌で紹介される人気のラーメン店がありました。濃厚なスープに肉厚のチャーシューが特徴で、さらに、いつも笑顔の店主の人柄も人気を後押しし、毎日のように通いつめる熱烈なファンがついています。そこへある男が来店し、注文したラーメンを「美味しい！美味しい！」と凄い勢いで食べるのですが、なぜかそれを見た店主の顔から笑顔が消えていきました。
なぜでしょう？</td></tr>
<tr><td>○主張と根拠や論拠の関係性を分析する。
【教科書本文の読解】
・「家族化するペット」を読み、各段落における筆者の主張とその根拠や論拠を読み取り、整理する。
・各段落における主張を支える根拠や論拠を「客観性」と「主張との結びつき」の２つの軸で、思考ツール（座標軸）を用いてホワイトボードアプリに整理する。</td><td>【教科書に書かれた主張と根拠や論拠の関係を整理する学びの留意点】
「客観性」や「主張との結びつき」への評価は一義的に決まらない場合もあるため、互いの考えを比較させることで、根拠や論拠を評価する視点が深まるよう留意する。</td><td>【指導に活かす評価】
観点：思考・判断・表現
方法：「記述の確認」
ワークシート</td></tr>
<tr><td colspan="5">第１次の学習活動のポイント
Step1 水平思考クイズ
必要な情報は何かを検討しながら情報収集に取り組むとともに、集めた情報を整理・分析して主張に結び付ける方法を習得する。
＋
Step2 教科書本文の読解
主張に対する根拠や論拠を読み解く中で、根拠や論拠を吟味することが主張の説得力につながることを理解する。</td></tr>
</table>

＜ホワイトボードアプリの例（イメージ）＞

一つのファイル内に複数のホワイトボードを配置し、他者のボードも見られるようにする。





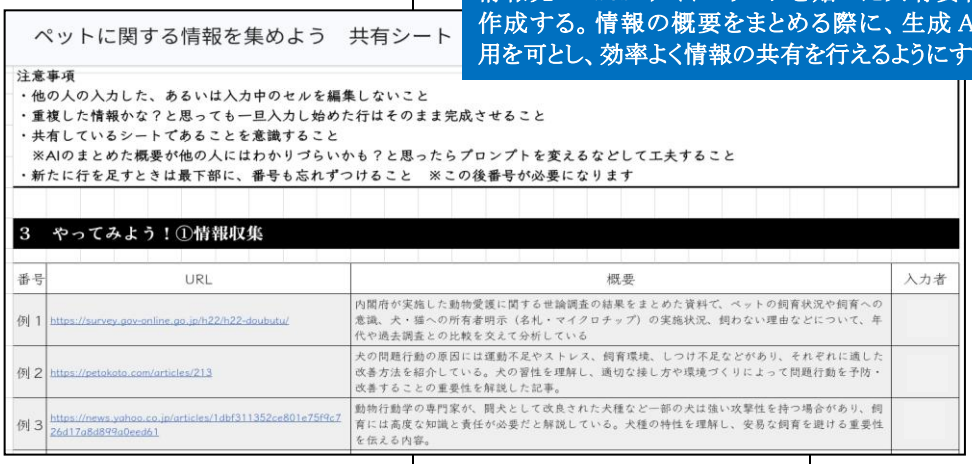
第２次（２単位時間）【本時】（２時間目）

活用

○意見文の課題を設定し、情報を収集する。 ・第１次の内容を踏まえ、「日本社会におけるペットに関する課題」を各自で設定する。 ・設定した課題に関連する資料を書籍やインターネットから探し、共有資料集（Google スプレッドシート）に入力する。	・第１次で学んだ、根拠や論拠の「客観性」と「主張との結びつき」という視点を、教科書本文の分析の場面や、自分で情報を集めて根拠や論拠を吟味する場面で活用させる。目標は「情報を集めること」ではなく、「根拠や論拠を吟味して主張を明確にすること」であることを常に意識させる。	【指導に活かす評価】 観点：思考・判断・表現 方法：「記述の確認」 ワークシート、 ホワイトボード アプリ

＜共有資料集の例（イメージ）＞

情報元の web サイトのリンクを貼った共有資料集を作成する。情報の概要をまとめる際に、生成 AI の活用を可とし、効率よく情報の共有を行えるようにする。



ペットに関する情報を集めよう　共有シート

注意事項
・他の人の入力した、あるいは入力中のセルを編集しないこと
・重複した情報かな？と思っても一旦入力し始めた行はそのまま完成させること
・共有しているシートであることを意識すること
※AIのまとめた概要が他の人にはわかりづらいかも？と思ったらプロンプトを変えるなどして工夫すること
・新たに行を足すときは最下部に、番号も忘れずつけること　※この後番号が必要になります

3　やってみよう！①情報収集

番号	URL	概要	入力者
例１	https://survey.gov-online.go.jp/h22/h22-doubutu/	内閣府が実施した動物愛護に関する世論調査の結果をまとめた資料で、ペットの飼育状況や飼育への意識、犬・猫への所有者明示（名札・マイクロチップ）の実施状況、飼わない理由などについて、年代や過去調査との比較を交えて分析している	
例２	https://petokoto.com/articles/213	犬の問題行動の原因には運動不足やストレス、飼育環境、しつけ不足などがあり、それぞれに適した改善方法を紹介している。犬の習性を理解し、適切な接し方や環境づくりによって問題行動を予防・改善することの重要性を解説した記事。	
例３	https://news.yahoo.co.jp/articles/1dbf311352ce801e75f9c726d17a8d899a0eed61	動物行動学の専門家が、闘犬として改良された犬種など一部の犬は強い攻撃性を持つ場合があり、飼育には高度な知識と責任が必要だと解説している。犬種の特性を理解し、安易な飼育を避ける重要性を伝える内容。	

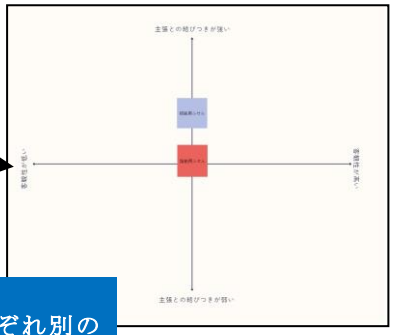
○課題に対する主張を立て、それを支える根拠や論拠を、座標軸を用いて整理し、吟味する。		P6「(5)学習指導案」参照
・主張を支える根拠や論拠をホワイトボードアプリの付箋に入力し、座標軸で整理する。 ・互いのホワイトボードの内容について、「客観性」や「主張との結び付き」について相互評価し、意見文で用いる根拠や論拠を精選する。	・相互評価を行う際には、批判ではなく改善につなげられるよう、「客観性は十分か」、「主張との結び付きは強いか」、「他にもっと適切な資料はないか」など評価の観点を明示し、共有する。	

第３次（２単位時間）	探究	○「日本社会におけるペットに関する課題」についての自らの考えを600～800字でまとめる。 ・前時に吟味した根拠や論拠を用いる。 ・「客観性」と「主張との結び付き」に留意し、根拠や論拠に基づき主張を明確にした意見文になるよう書きまとめる。	・①情報の収集→②整理・分析 →③根拠や論拠の評価→④主張の明確化、という流れによって論拠に基づいて自分の考えを形成することを意識させる。 ・今回は構成に重きを置いた単元ではないため、生徒の実態に応じ構成例を提示したり、生成AIを用いたりすることも考えられる。	【記録に残す評価】 観点：思考・判断・表現 方法：「記述の分析」 意見文
		【評価Ａ～Ｃの生徒の姿の具体例や評価Ｃの生徒に対する手立て等】 ・ここまでの学習を生かし、「根拠や論拠を吟味し、適切な論拠を基に自分の主張を明確にすることができている」状況を評価Ｂ、さらに「他者からのフィードバックを生かし、論拠を適切に組み立てることができている」ものを評価Ａとする。 ・評価Ｃ（根拠や論拠を吟味することができない）生徒には、前時に作成したホワイトボードを確認し、主張と根拠や論拠の関係などについて対話により気付かせるようにするとともに、他の生徒のホワイトボードの閲覧を促す。		
		○互いの意見文を評価する。 ・互いの意見文について、本単元で学んだポイントを観点として相互評価を行う。 ・他者からの評価を踏まえて、ワークシートに振り返りを記入する。	・振り返りにおいては、第１次で習得した知識・技能を活用できたか、第２次から第３次にかけてどのように自分の主張を明確にしていったかなどを意識して記述させる。	【記録に残す評価】 観点：主体的に学習に取り組む態度 方法：「記述の分析」 ワークシート

(5) 学習指導案（５時間目／７時間中）

科目名	論理国語	単元名	情報を整理して、適切な論拠を基に自分の考えを述べる	
本時の目標	座標軸を用いて情報を分析し、主張を明確にするために必要な根拠や論拠を吟味する。			
本時で取り上げる主な言語活動	集めた情報を整理・分析し、根拠や論拠の「客観性」と「主張との結び付き」について相互評価し、意見文に用いるべき根拠や論拠を精選する。			
教材	・山田昌弘「家族化するペット」（大修館書店） ・日本国内のペットに関する資料		実施対象	第３学年
本時における評価の観点・評価規準・評価方法	本時の評価の観点	本時の評価規準	本時の評価方法	
	思考・判断・表現	「書くこと」において、根拠や論拠を検討し、他者の意見を参考にしながら、自らの主張を支える根拠や論拠を精選している。	ホワイトボードの付箋の配置及びそれに対する相互評価欄の記入から、適切な情報の取捨選択と分析ができているか確認する。	

学習活動（言語活動）	形態	指導上の留意点等	備　考
導入（10分） ・前時の振り返り ・本時の目標の確認	一斉	・前時に収集した情報の共有資料集から、妥当性や信頼性の高いもの、客観性の高いものなどを取り上げて紹介する。また、本単元の３時間目に行った情報の整理・分析の方法を再確認する。 ・読み手からの理解、共感を得られる明確な主張とするための情報の取捨選択が本時の目標であり、次回に向けた重要な取組であることを意識させる。	

展開（30 分） ・自らの主張を支える根拠や論拠について付箋に記入し、「客観性」と「主張との結び付き」の２軸で整理・分析する。 ・根拠となるデータを元に論拠を付箋に記入し、「主張との結び付き」を縦軸で整理する。	個人	・自らの気付きにつながった情報以外にも、関係のありそうな情報を、前時に作成した共有資料集から探してホワイトボードにまとめる。 ・情報の整理・分析の際には他者の取組状況も参考にするよう適宜、声掛けをする。 ［イメージ］ 「根拠」と「論拠」をそれぞれ別の色の付箋に記入する。	
・他者のホワイトボードの内容について評価を行い、閲覧したボード上にコメントを記入する。		・相互評価を行う際には、批判ではなく改善につなげられるよう、「客観性は十分か」、「主張との結び付きは強いか」、「他にもっと適切な資料はないか」などの評価の観点を明示する。 ・相互評価の目的は、「より説得力のある意見文を書くための助言」であることを確認する。	・ホワイトボード上に記入された根拠や論拠の評価が適切であるかどうか、教員もホワイトボードを随時確認するとともに、コメント機能等での評価を用いて修正・改善のための気付きを促す。 ・相互評価の内容についてもコメント等で教員からの評価を行い、まとめに向けた情報の取捨選択の支援につなげる。
まとめ（10 分） ・他者からの評価を受けて、自らの主張とそれを支える根拠や論拠の見直しを行う。	一斉	・他者の意見を参考に、ホワイトボードを見直し、情報の追加・削除などを行い、精選した根拠を用いる場合、主張と根拠をつなぐ論拠はどのように表現できるかなどを考え、次回の文章化に向けた見通しをもたせる。	

(6) 学習の進め方や学習評価の工夫

ア　「書くこと」の資質・能力を育成するための学習の進め方の工夫

本事例では「書くこと」の土台となる根拠や論拠を吟味する手法を身に付けることを目指している。周囲の生徒の力を借りたり、生成 AI を活用したりしながら、情報を収集・整理・分析して自らの考えを構築するという、段階を踏む形で単元を構成した。

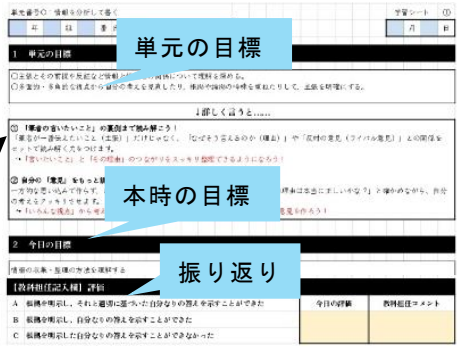
本単元では目標の「根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にすることができる」ことを、「①情報を集める、②適切な基準で情報を整理・分析する、③自らの主張を支える根拠や論拠を選び取る、④根拠や論拠を用いて主張を明確にした意見文を書く」という４つの段階に分けて、各段階での学習状況を評価することにより、どこに課題があるのかを見取りやすくすることで、生徒の資質・能力の育成につなげるように工夫した。

イ　ICT を活用した評価の工夫

ワークシートは Google スプレッドシートのファイルにシート別にまとめ、主体的に情報を収集・整理・分析し、根拠や論拠を吟味し、自らの主張を明確にした意見文を書くための流れが生徒自身にも視覚的に分かりやすいように工夫した。単元全体を通じて目指すべき目標とともに、毎時の目標をいつでも見返せる形で示すことにより、生徒が常にゴールを意識して取り組みやすくなることを意図したものである。

また、単元全体のワークシートを１つのファイルにまとめることで、生徒それぞれが自らの考えの変化や学びの過程を振り返りやすくすることをねらいとしている。

＜１時間目のワークシートの例＞



［イメージ］
「単元の目標」、「本時の目標」、「振り返り」まで１枚のシートにまとめている。

４　主体的・対話的で深い学びの実現に向けたチェックリスト

次の表は、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業改善につながるチェック項目を学習者と授業者の視点からまとめたものであり、主体的・対話的で深い学びを実現するために授業者が何に取り組めばよいのかを明示したものである。

例えば、学習者が学ぶことに興味や関心をもったり、見通しをもったりするために、授業者は既習事項を振り返らせたり、生徒が自ら単元の目標や流れをつかめるよう示したりすることなどが考えられる。

このように、主体的・対話的で深い学びを実現するためには、学習者と授業者双方の視点の往還を通して授業改善を図ることが重要である。

	授業改善に向けた「学習者」の視点	授業改善に向けた「授業者」の視点
主体的な学び	□学ぶことに興味や関心を持つ **□既習事項や生活体験を生かして考える** □自己のキャリア形成の方向性と関連付ける □学習課題やゴールを理解し、見通しをもつ □粘り強く取り組む □自己の学習活動を振り返って次につなげる	□既習事項を振り返る □具体物や例を提示して引きつける □生徒が明らかにしたくなる学習課題を設定する □生徒が自ら単元の目標や流れをつかむようにする **□学習課題を解決する方向性について見通しをもたせる** □生徒が自分の考えをもつようにする □生徒の思考を見守る □生徒の思考に即した授業展開を考える □生徒の考えを生かしてまとめる □その日の学びを振り返る □新たな学びに目を向けさせる
対話的な学び	**□根拠を示しながら、自分の考えを伝える** **□生徒同士の協働を通じ、自己の考えを広げ深める** □教職員との対話を通じ、自己の考えを広げ深める □地域の人など多様な他者との対話や ICT 等の活用を通じ、自己の考えを広げ深める □先哲の考え方を手掛かりに考える	**□根拠の妥当性を検討させる** **□思考を交流させる** □交流を通じて思考を広げる □協働して問題解決する □板書や発問で教師が生徒の学びを引き出す **□ICT や生成 AI 等を活用して、多様な意見に触れさせる**
深い学び	□「言葉による見方・考え方」を働かせる □知識を相互に関連付けてより深く理解する **□情報を精査して考えを形成する** □問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう	□資質・能力を焦点化する （身に付けさせたい力を明確にする） **□単元の目標と言語活動や課題を関連させる** □ねらいを達成した生徒の姿を具現化する □教材の価値を把握する □単元及び各時間の計画を立てる □目標の達成状況を評価する

表　主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点について（令和２年６月文部科学省　国立教育政策研究所）を基に一部加筆